

第2回 広島市健康づくり計画「元気じゃけんひろしま21（第3次）」策定懇談会 会議要旨

1 会議名

第2回広島市健康づくり計画「元気じゃけんひろしま21（第3次）」策定懇談会

2 開催日時

令和5年11月28日（火）19：00～20：30

3 開催場所

広島市中区地域福祉センター5階 大会議室

4 出席委員（13名）

梯座長、河村委員、金沢委員、瓜生委員、木村委員、溝上委員、中野委員、寺村委員、八木委員、松本委員、井唯委員、西田委員、河野委員（順不同）

（欠席：辻副座長、西本委員、仲山委員、大串委員、下原委員、川根委員、森永委員）

5 オブザーバー・事務局

(1) オブザーバー（3名）

佐伯区厚生部地域支えあい課医務監、西区厚生部地域支えあい課地域支援担当課長、安佐南区厚生部地域支えあい課専門員

(2) 事務局（7名）

健康福祉局保健医療担当局長、健康福祉局保健部参与(事)健康推進課長、健康福祉局保健部医務監(事)保健指導担当課長、健康福祉局保健部健康推進課職員4名

6 議題

(1) 「元気じゃけんひろしま21（第3次）」の素案について

7 公開・非公開の別

公開

8 傍聴人

0名

9 会議資料

資料1 「元気じゃけんひろしま21（第3次）」素案（案）概要

資料2 広島市健康づくり計画「元気じゃけんひろしま21（第3次）」素案（案）

参考資料1 第2次計画と第3次計画の施策体系の比較

参考資料2 第3次計画（案）、国「健康日本21（第三次）」及び第2次計画の目標の比較

参考資料3 「元気じゃけんひろしま21（第3次）」たたき台に係る主な意見への対応等

10 会議要旨

- (1) 「元気じゃけんひろしま21（第3次）」の素案について
資料1から資料2に基づき、事務局が説明を行った。

【資料1及び資料2について主な質疑応答等の要旨】

(座長)

全体が長いので、区切って焦点を当てながら質問等をいただく。素案の第1章から第3章について、意見や質問等はあるか。

(委員)

7ページの新型コロナウイルス感染症の影響による生活の変化について、コロナ禍が終息すると、若い人はすぐにコロナ禍前の生活に戻りそうだが、高齢者ほどコロナにより変化した生活がずっと続きそうな印象があるので、今後も検討するというのも良いかと思う。

また、在宅でのリモートワークが定着してきているが、50代の糖尿病患者で、出社するとHbA1cが下がり、在宅になると悪化するという、リモートワークの導入が生活習慣病に影響を与えた事例があった。そのあたりも検討してもらおうと面白いかと思う。

(座長)

出社することが運動になっていると考えられ、逆に、在宅でのリモートワークにおける傾向が簡単に改善しないようならしっかりと意識して考えていかなければいけないと思うが、事務局はどうか。

(事務局)

今後、実際にどのような取組が必要かについて、リモートワークの今後の傾向も踏まえて、来年度の各部会で検討したい。

(座長)

第4章の基本方針①について、意見や質問等はあるか。

→ 意見等無し

(座長)

第4章の基本方針②について、意見や質問等はあるか。

(委員)

修正を重ね、市民に伝達や広報がしやすく大変良い計画となったと感じている。こういった取組項目について具体的にクローズアップしながら、老人クラブの活動と元気じゃけんひろしま21を繋げて取り組んでいきたい。

老人クラブの活動は大まかに4つの柱があり、一番大事な運動、社会参加、お互い同士の交流、友愛活動と展開している。素案は、これらをほとんど網羅しており活動を進めやすいが、友愛活動の項目のみ整合性が取れていない。友愛活動は、具体的に言うと、高齢者の一人暮らしや児童の登下校の見守り活動、公園等の清掃の美化活動などである。この活動が生きがいを持つということに繋がっており、この生きがいが健康づくりに繋がる。51ページの目指すべき姿の、市民の主体的な健康づくりを支える地域づくりに「地域のイベントやグループ活動等に積極的に参加します。」とあるが、例えば、支えあいのまちづくり活動や、地域の支えあい活動などという項目を追加してもらいたい。

また、世代ごとに目指すべき姿の記載があり、良いまとめ方だが、今後広報活動を推進するうえで、この項目を掲載して進めていくのか。当然、表に出して進めるべきだと感じるので、その確認をさせてもらいたい。

(事務局)

39ページの基本方針②の(1)市民の主体的な健康づくりを支える地域づくりの中で、施策の方向性を「地域とのつながりの強化に向けた取組」とし、それを評価する目標を「社会活動を行っている者の増加」、指標を「いずれかの社会活動（就労・就学を含む。）を行っている者の割合」としており、友愛活動はこの社会活動に該当すると考える。友愛活動等も含めた社会活動を行ってくださる方の割合を増やす取組を進めていくため、このような指標を設定しているところである。

御質問の、今後啓発を行う時に目指すべき姿をチラシ等に掲載するかについて、第2次計画と同様に、市民に分かりやすいようにライフステージごとに目指すべき姿を整理して作成し、配布するよう考えて

いる。

(委員)

社会活動の中に、友愛活動や支えあい活動が含まれるということは基本的に了解だが、皆さんに伝達し進めていく際には、具体的に分かりやすい表現とすることが大事であるため、もう少し踏み込んだ表現をしてもらった方が、良い効果となると感じている。

(事務局)

追加で記載するよう検討したい。

(座長)

「いずれかの社会活動(就労・就学を含む。)」の中に、地域に貢献するような活動を含むというのは、確かに少しイメージがわきにくい表現かと思うので、検討してもらえたらと思う。

(委員)

17 ページにあるように、生活習慣の改善に取り組むにあたっては、テレワークの普及などの生活環境の変化を踏まえた健康づくりが、今後、働く世代に必要であろうということは、非常に納得できる。それを踏まえて 21 ページの運動に繋がると思うが、「働く世代になると、仕事や育児等で運動の時間が取れないことが多くなる」と記載があり、これに加えて、働く環境の変化を踏まえて意識的に運動する、というような表現があると、今後、個人がとるべき行動が明確に伝わるのではないかと思った。あわせて、現状と課題にあるように、コロナ禍による外出自粛の影響で運動量が減ったということも当然あるが、コロナによる就労環境の変化、例えばテレワークなどで活動量が減るということも踏まえると、個人の行動変容に繋がるのではないかと思った。

(事務局)

御意見を踏まえて記載内容を検討したい。

(委員)

何か月か前の新聞に「消える町内会」とあったように、自治会が減っていたり、団地に若い人が来るが考え方が全く違ったりと、地域が大きく変わった印象がある。コロナ禍が過ぎても、なかなか元に戻らず、随分現実が変わっており難しいと感じるが、毎日、親や地域の高齢者が登下校を見守りするのはすごく良いと思うため、そのような参加しやすい形の取組を考えたら良いかと思う。

(座長)

社会環境を考えるうえで、時代の趨勢は考えざるを得ないと思うが、追加で回答はあるか。

(事務局)

この健康づくり計画とは別に地域コミュニティ活性化ビジョンがあり、そちらの方で地域づくりの活性化を進めているので、連携を図りながら、健康づくりを支える地域づくりを進めていきたい。

(委員)

43 ページの施策の方向性の「健全な食生活を支援する食環境づくりの推進」について、栄養・食生活の目標の野菜摂取量の増加は前計画の評価で悪化しており、現状値と第 3 次計画の目標が 100g 以上の差がある。物価高ということもあり、環境整備が非常に重要となるが、12 年間での目標達成の見通しがあるのか。例えば、農林部門などの、今まで連携があまりできていないところとも連携するなど、これまでにない切り口や道筋で強力にやらないと、目標を設定しても、なかなか実現が難しいかと思う。

(座長)

今回の計画は大きな理念を整理してあるので、今後、これを肉付けしていく段階で、先生方に意見をたくさん出していただいて計画を実行してもらいたい。

(座長)

第 5 章について、意見や質問等はあるか。

(委員)

昨今、若者のオーバードーズや大麻グミ等の薬物の問題などが報じられている。次世代は、概ね 0 歳から 19 歳までということだが、中高生であれば学校保健法の中でいろいろ施策があるため、それ以外の 10 代後半から 29 歳くらいまでの若者が特に気になっている。企業であれば、メンタルヘルスケアな

どを行うが、この若者世代はそういう取組がないことや、この世代が 10 年後の広島市を支える世代であるため、何らかの施策を別に考えてもらいたい。薬物の問題は、若者が心も体も疲弊していることが原因であり、首都圏では大きな問題になっている。広島ではそこまで大きな問題にはなっていないが、おそらく今後、中核都市に降りてくると考えるため、今のうちにこの世代へ何か施策を打ち、しっかりとケアしていけば、10 年後の広島市も変わってくると思う。これについて、広島市として考えていることはあるか。

(事務局)

このことについて、現時点では申し上げることができないのが実態である。今回新たにライフコースアプローチの観点を取り入れており、子どもの頃の生活習慣が働く世代、続いて高齢世代へも影響するというので、単に世代を縦割りにするのではなく、経時的に捉えている。そういった視点の中で、次世代から働く世代に向けての取組を検討したい。

(委員)

行政の施策として、乳幼児や子ども、働く世代の 30 代 40 代、そして高齢者にはいろいろ取組をしているが、10 代後半から 20 代の若者に対して何もしていない気がする。今、この世代が非常に疲弊しているため、薬物などに走ってしまう。これを食い止めておかなければならないため、もう少しフォーカスした取組を今後検討してもらえたら良いかと思う。

(事務局)

子どもに関する計画等も別にあるので、そちらとも情報共有を図りながら検討していきたい。

(座長)

若者が疲弊している原因は、単に狭い意味の健康問題というよりは、もっと広く社会問題になっており、健康日本 21 の中だけでは到底解決できないような大きな問題であると思う。ただ、それを意識しなければ健康へも繋がらないので、そういう視点を持ちながら健康づくりを進めてもらいたい。

(座長)

第 6 章について、意見や質問等はあるか。

→ 意見等無し

(座長)

全般的に非常によく取りまとめられており、項目が多い割にわかりやすかったと思う。全体を通して意見等はあるか。

→ 意見等無し

(事務局)

今後は、本日いただいた御意見等を踏まえ作成した素案について、市民意見募集を行った後、市民等の意見を反映させた最終案について、2 月開催予定の第 3 回策定懇談会で御意見をいただく予定としているので、引き続きよろしくお願いしたい。